

リブログふりかえり

shibuhei

子供と二人で毎日過ごしてた時

忙しくて家に帰れないけど優しい夫と、生まれたばかりの子供とずっと三人で暮らしてた。親元から離れて、知り合いが余りいないところで、私は出産と育児で仕事は退職した。子供が大きくなったら復職しよう、保育園に預けて復職しようと思った。

一歳二歳のころは、気が狂いそうに辛かった。同時にすごく子供は可愛くて可愛くて寝ているところを見ると胸がキュンキュンしたんだけど、毎日毎日育児だけで話す人も居なくて、インターネットで日記を書いたとしても、むなしくてだめだった。

夫は時間を見つけていっしょに買い物行ったり生協を利用を進めてくれたり、仕事の帰りには買い物してくれたりした。でも帰りはとにかく遅くて、夜の九時とか十時とかで、朝は七時に出ていく。その間私は子供と一緒に過ごしてた。散歩したり図書館行ったり、お話したり、公園行ったり、思いつく限り、色々した。楽しかったと思う。今、当時の子供のビデオをみると、キャーキャー笑っててすごくかわいい。すごく明るい。私も笑ってた。でもすごく辛かった。

何が辛かったかというと、社会から取り残されて、とかそういうんじゃなくて、単純に、誰とも全然しゃべらないことと誰もこの辛さが全く解ってくれないことだった。子育てで家に入れてシアワセだねと言われるし、確かにそうなんだろうと思うけど、子供とだけ過ごす毎日が、子供に毎日気を配る毎日が、ちょっとスーパーに行って目を離れた隙にどこか行ってしまう子供を非難するようにつれてくるお婆さんが、公園で遊んでいる子供に仲良くしてくれるけど時々目を話していると意地悪をする近所の小学生が（その小学生は家にあったゲームを盗んでかえっていったみたいだった）引っ越してきたばかりの誰か解らない人に対するやさしいし何でも言ってねって言うってくれるけど実際は何もしてくれない近所の人、公園出会う仲良いようでよそよそしいようだがんばって仲良くなれないといけない必死だったりするか逆に輪には入れていて既に横柄なお母さんが嫌だった。人間関係がいやだった。子供のために人間関係を作ってその人間関係で人間扱いしてもらわないといけない。仕方ないとおもっていたけれど、どうしたらいいか解らなかった。公園では子供がそれなりに遊んでくれたし、近所のお母さんも気を使ってくれたと思う。子育ての話もしてくれた。でも、すごく時々だった。仕事があって保育園に言っているお母さんは忙しい。仕方がない。母親神話とか児童心理学の本とか虐待についての本も色々読んで。子供の虐待ホットラインとか市民の相談とかも知っていたけど、何が一番自分が不満なのか辛いのか良く解らなかったから、相談はしなかった。ただ、時々酷く一人にはなりたかった。考えが全くまとまらない。子供の寝顔は毎日見ていた、みるようにしていた。寝顔はすごくかわいい。寝顔でなくてもかわいいんだけど、寝顔は気楽にかわいいからだ。寝顔を見ないと、いつか、子供にひどいことを繰り返すのではないかと思っていた。子供に何でそんなことするの、と怒る時、怒った時、すごく嫌だった。子供が危ないことや怒るべき事は怒るべきけど、何、お茶碗をひっくり返したぐらいで怒らなくていいのに。でも怒ってしまっていた。些細なことでも。それに自分で気付いてから、夫に私はおかしいか、怒りすぎてると思うと話した。虐待とかしてしまったらどうしよう。夫は日曜、土曜と、子供と実家に帰ってくれたり、子供を見ていてくれたので私は図書館にいたり買い物にいたり友達にあたりした。でも月曜日からはまた一人だ。子育て支援もすこし利用したけど、そんなに便利と言う訳ではなく、一時保育も余裕があるわけでない家計からは捻出しづらかった。

でも保育園は全然空いていなくて、待機児童だらけで、入所にはすごく時間がかかるだろうと言われた。私立の保育園は月に7万かかると言われた。何のために働いているんだから解らない金額だ。そして子供と一緒にいれるわけでもない。無認可の施設もそうだ。一体どうなっているんだろう。仕事には出れなかった。子供と毎日過ごす。化粧も全然しない。夫は元々化粧が好きじゃなかったからそれがいいって言っていたけど、久しぶりに化粧したら、目元にしわが出来ていた。ぞっとした。自分の顔が解らない。

ある日の昼、買い物の帰りにうどんを子供と一緒に食べに行った。安いうどん屋さんでうどんを食べようとしていた。店でつまづいて転んだ子供が泣いた。しばらくあやしていたら、隣の席にいたおじさんが「しつけがなってないから泣くんぞ」と喚いた。私は、うどんを残して席を立て子供を鞆をかかえて外に出た。涙がポロポロでた。こんな小さい子供のしつけが出来るわけ無い。でも店に入った自分が悪いのかもしれない。なんでこんな目に会うんだろう。しつけが出来ていないっていうことは親失格だってことだろうか。子供に怒ってしまう。もう死にたい。やめたい。でもそう言う訳にも行かない。自転車で帰ろうと思っていたら、店から出てきたさっきの人とは違う、知らないおじさんが「気にするなよ」と言って笑いかけた。「ありがとうございます」と言って泣きながら頭を下げたら「子供が泣くのは当たり前だから！がんばれよー！」と言って、おじさんはニコニコ手を振って車に乗って帰っていった。

今は子供は当時よりは大きくなっている。店で騒いだりもしない。保育園はずっと待っていたら入れた。仕事もはじめた。子供は友達が出来た。夫は仕事を変えた。一緒にいてくれる。二人目もほしい、って言っている。

あの時、「気にするな」って言ってくれた人のことは何となく覚えている。あの時、そのまま家に帰っていたらどうしていただろう。オオゲサだ、とは思う。何もなかったかもしれない。でも。

こないだ、電車で泣いている小さい子がいて困っているお母さんがいたので、持っていたサクマ式ドロップをお母さんに良かったら、と言って渡した。困っていたお母さんと過去の自分の姿がダブって見えた。私の隣にいた、子供が、ちいさいねーかわいいねーと言っていた。子供と手を繋いで家に帰った。

仕事（など）ができる。

できる大人から「仕事を早く終わらせるコツは、資料に不安があってもさっさと添付して”送信”ボタンを押すこと」だと教わった。真理なのだが胆力が必要だ。あと実力も。

100年前の技術から現代への教訓を学ぶ

当時、人々は長いこと、鯨油や灯油を燃やして燈すランプを使っていた。それが巨大な天然ガス会社が、ガスのインフラを整備し、ガス灯に置き換わろうとしていた。公共の施設だけでなく、家庭でもガス灯が使われ始めていた。価格も、それまで使っていた鯨油や灯油に比べれば安いし、明るいから、人々はどんどんガス灯に移行していた。

白熱電球が発明されたのは、まさにこの頃なのだ。ちょうど次世代DVDは、**HD-DVD**か**Bluray**かと争われていたように、次世代ランプは、ガスか電気かという争いが行われたわけである。エジソンの一番の敵は、ガス会社だった。

この戦いに、エジソンは、消費者や業者の動きを出来るだけ変えないで普及させる方法をもって望んだ。

例えば、電球のソケットって、灯油機器のソケットにそっくり。これはエジソンが、灯油ランプを使っていた人々が、同じ感覚でランプの交換が出来るように工夫したものだ。それに、灯油ランプと同じ形であれば、それまで灯油ランプを作っていた人たちに、電球を作ってもらえることが可能だ。

電球が普及しても、灯油ランプを作っていた人たちは失業せずにすむ。灯油ランプ業界団体から、強い反対を受けずに技術をサポートしてもらえ出来る。

このように、消費者やサプライヤーなど、バリューチェーンの自分以外のプレイヤーの動き方を変えない工夫を凝らす、というのは技術を普及させる上で重要なポイントだったのだ。

早く多く間違えよう

スキルだの頭のよさだのの差じゃなくて行動する早さの差

実は人生においては、そういうことが頻繁に起こっているんだろうと気づいたのです。

有限の距離にあるゴールに向かうための正しいプラン、やり方ばかりを気にしていると、無限の遠方を目指す間違いを繰り返しながらの一步一步の積み重ねという歩みができなくなってしまう。そうすると、間違いの創発が起こるチャンスはすくなくなっていて、とにかくチャレンジしてみて間違えて覚えるということを繰り返している人との差はどんどん広がっていくのだろうなと思ったんです。

これって、スキルだの頭のよさだのの差じゃなくて、ふだんの生活でどれだけ好奇心をもってそれをすぐさま自分の行動に移せるかどうかの差なんだろうなと気づいたんです。

とにかく行動のはやさ。脊髄反射的なレスポンス。これって重要！ まさに「頭の中にあることを瞬間的に出せる訓練をしないとコンセプトもへったくれもない」ですね。

あー、人生プロトタイピングだなーって思いました。

そう考えると、どうなんだろう？ いまの教育の基本そのものが大きくズレてるんじゃないかという気がするのです。

結婚式の言葉

「〇〇君、君は僕の娘を、幸せにしてくれなかったっていい。ただ、孤独にはしないで欲しい。喜ばせたり励ま
さなくていいから、たくさん話をして、いつも味方でいてあげて欲しい。孤独っていうのは、貧乏よりも辛いん
です。」結婚式って冴えないおじさんが真理を吐いたりするから好き。

リスト化しておくべき9つの項目

- 贈り物のアイデア
- ちょっと時間が余った時にやっておくこと
- 気になる映画・本・音楽
- 困難で大胆な目標（BHAGs）
- 死ぬまでにやってみたいこと（バカバカしいもの含む）
- 忘れそうなこと（会社の新人の名前など）
- 仕事上のグレートなアイデア
- 買い物（特に日々の食料）

大きさ

リストラされた友人が「かなりのダメージを受けたよ。ダメージの大きさで言えばあれはリストラじゃなくてリストガだな」と言っていた。こいつは大丈夫だと思った

グレープフルーツを飲む

昔サークルの先輩が言ってた話だけど「体が疲れているかどうか分からなかったらミニッツメイドのグレープフルーツを飲め。甘く感じたら疲れている、酸っぱく感じたらまだ疲れは溜まっていない」これが結構当たる。

元やくざに学んだ交渉術

平成の初め頃、熊本市内のやばい系のタクシーと私のお客さんの車が、事故を起こした。状況は、お客さんのほうが不利だった。

32, 3歳の私は、相手が難しいタクシー会社だがここでびびっては負けと、張り切りすぎて、交渉に臨んだ。元やくざと思える交渉係と話し合いになったか、言葉の行き違いから、私はかっとなり、怒鳴りあいになった。気まずい沈黙の後、しばらくすると、元やくざと思えるその交渉係は、にやっと笑って、こう言った。

「坂本君といったかな。交渉はねえ、かっとなったほうが負けなんだよ。まず相手の言い分をじっくり聞く。そして、相手が言ってはならない言葉を言ったとき、その言葉尻を捕らえ一気に畳み込んでいくのだよ。」

「君は、まあしかし、一生懸命だね。そこは認めるよ。」

結局、交渉は妥当なところで落ち着き、損保会社としても満足の行く結果となった。

この経験は、後々、ものすごく生きてくることになった。

それは、中途半端に権限を持つ人間に限って、言ってはならないことを言うということである。だから、その言葉を聴いたら、すかさずその言葉尻を捕らえて、一気に畳み込んでいけば相手を圧倒できるのである。そういう経験をその後数回経験することになる。

その最大のものは、長女の高校入試のときだろう。以前の日記で書いたが、中学校側が、長女に私立進学を諦めさせようとさまざまな圧力をかけたため、それに嚴重抗議して、長女の希望をかなえさせることになったことだ。

嚴重抗議というより、私の一方的恫喝と咆哮、といった方がいいだろう。私はこのときほど、激昂したことはない。それは電話してきた相手が、言ってはならないことを言ったためである。

なんと言ったのか。

「坂本さん、長女さんのことであんまりもめると、後に続く、弟さんや妹さんの進学にも影響が出ないとも限りませんか。」

脅迫である。言葉は柔らかいが脅迫である。脅迫というのは、こういう言い方の方が、効くのである。つまり、この人間は、脅迫の経験者ということになる。

私の回答。(標準語に修復)

「お前なあ、もう一度言ってみろ。お前、自分が言った言葉の意味わかってるのか。それは脅迫だぞ。お前今までそうやって、俺みたいに抗議した保護者を屈服させてきたな。そうでなきゃ、そういう言葉は簡単には出てこないものだ。俺はお前を許さない。今からそっち行くから首洗って待ってろ。お前なあ、吐いたつばは飲み込めんのだぞ。」

私のものすごい剣幕に、相手は、電話口でもしきりに謝っていたが、私は許さず、会見場でも、この話を三回蒸し返して、そのつど謝らせた。徹底的に屈服させたのだ。私が怖かったのだろう。一人の私に対して、5人くらいで待っていた。

この手の人間は徹底的にたたき伏せておかないと、同じことをしでかすのだ。本人のためにならない。私がまともなかたぎでいい人だったから、これくらいですんだのだ。もし私が執念深い宅八郎だったら、個人的に潰すまで行っただろう。だが、私は明るいいい人なのだ。根にもたない南方系のいい人なのだ。そういうことにしているので許してやった。

きっと、これをいい経験にして、出世していこう。がんばってほしいものだ。

だが、この人間以外にも、中途半端に権限を持つ者が、弱いものいじめよろしく、相手をやんわり脅迫するというのがその後何回かあったのだ。まったく別の問題でだ。

先日も、先輩の不動産契約でそんなことがあったのだ。本契約もしていないのに、断ろうとしたら違約金を取るうとしたのだ。まったくルール違反もいいところだ。紹介した手前、恥をかかされたのは私だから、出向いて、前言を撤回させた。

おそらく、今までも、相手の弱い立場に付け込み、そうやって、迷う客を脅迫して来たのだ。そして、すべて相手を屈服させてきたのだ。そうでないと、こういう脅迫めいた言葉は自然には出てこないものだ。

私が手際よく相手を理詰め追い詰める様子を、先輩は後から誉めてくださった。そう言うてくださるのはうれしいが、こんな馬鹿業者を信じて安易に紹介したのが悔しくて、別の懇意な業者を紹介し、納得いく契約を結果的に結んでいただくことになった。

交渉ごとは、まず相手の言うことをじっくり聞くことから始まる、これだけは鉄則であるようだ。

産後の妻に

母乳は母親の血液から作られるんだよ。毎日献血してるようなもんだよ。出産でダメージ受けて、かつ寝不足の身体にそんだけの負担がかかってんだよ。産後の妻に「働いてないんだから家事くらい」とか簡単に言うな！